

「音楽づくり」ガイド

おわりに

2024年12月、学習指導要領の改訂に向けた検討が中央教育審議会に諮問されました。そこでは、生成AIの発展などを踏まえ、知識の集積だけでなく、深い意味の理解を促す学びの在り方などが検討されたり、短縮授業を導入するなど柔軟な教育課程が課題となったりしているということです。一方、「文化芸術教育の充実・改善に向けた検討会議」の論点整理では、「個別性の重視による多様性の包容、多様な価値を認める柔軟な発想や他者との協働、身体を通して知性と感性を融合させながら対象や事象を捉えていくこと」などを芸術系教科における学びの意義とし、今後の学習指導要領の改訂においてもその価値を十分に踏まえ、芸術系教科が子供の学びの転換をリードしていく必要性を強調しているそうです。

こうした動向の中で、今後の学習指導要領は改訂されていきますが、「音楽づくり」は、それらの変化に対応していく個々の「即興性」「創造性」を育み、その上で「協働性」を生み出します。「音楽づくり」を学習していくことは、音楽の学びを深めるだけでなく、これからの時代を生き抜く子供たちに必要な能力を身に付けていく学習といえるでしょう。

本ガイドは、ICTの活用が日常的になった時代に対応し、教科書教材を活用して「音楽づくり」を学ぶ意義を、事例を通して感じられるように取り組みました。ご意見ご感想などを寄せていただけたら、編集部と検討してアップデートしていきたいと考えています。その上で、より学びを深められる次の教科書づくりにも生かすことができたらと願っています。

2026年3月
監修 石上則子